

令和8年予算審査特別委員会
代表質問日程表

質 問 日	会 派 名	質 問 者	
3月17日(火) 午前	公明党	1	近藤 隆行 議員
	新風みらい	2	田澤 信行 議員
	日本共産党議員団	3	宮路 敏裕 議員

※質問方式は、一括方式です

令和8年予算審査特別委員会「代表質問表」

発言の順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
1	公明党 (近藤 隆行)	1. 人件費、物価高騰が新年度予算に与える影響について	(1)人件費、物価高騰が新年度予算に与える影響について	<p>ここ数年、市政運営について人件費と物価高騰が新年度予算に大きな影響を与えているのではないかと推測しています。多くの自治体で市税収入の大幅な増加が見込めない一方で、歳出全体が押し上げられ、財政状況は依然として厳しい状況であると認識しています。そこで5点伺います。</p> <p>①人件費の増加については、国の給与改定や高騰により、新年度予算に与える影響はどのように認識しているのか伺います。</p> <p>②物価高については、公共施設の維持管理や光熱費の高騰、建設事業費や資材価格も大きく上昇していますが、新年度予算に与える影響はどのように認識しているのか伺います。</p> <p>③社会保障関係経費の累増については、高齢化に伴い、社会保障関係費が増加しているのではないかと推察しますが、どのように認識されているのか伺います。</p> <p>④公共施設の老朽化対策についても、老朽化した公共建築物や、インフラ施設の長寿命化対策に多額の財源が必要になるが、認識を伺います。</p> <p>⑤人件費増加・物価高騰が続けば、短・中期的に財政全体に与える影響も大きいと思うが、認識と今後どのように対応していくのか伺います。</p>
		2. 自主財源確保に向けた取り組みについて	(1)自主財源確保に向けた取り組みについて	<p>①自主財源は、持続可能な行政運営のためには非常に重要な財源のひとつであります。特に人口減少や少子高齢化が進む社会は、自治体自らの裁量で使える財源を増やす工夫が極めて重要であります。佐野市長の基本的な考えと今後の対応について伺います。</p> <p>②ふるさと納税は、本市にとってとてもありがたい自主財源のひとつであります。これまで、やりたくても財源不足でできなかった事業があったが、ふるさと納税のお陰で多くの事業が執行されました。その象徴的な事業が、昨年9月にオープンした全天候型子ども遊戯施設「うさぎもちハレラテつばめ」であります。寄付して頂いた方の意向もあるので一概には言えないが、今後、予算編成の中でこれに頼らない予算の取り組みの考え方も必要であると思うが、考えを伺います。</p> <p>③ネーミングライツ等の広告収入確保、基金運用への取り組みについての現状と課題、また今後の取り組みの認識について伺います。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
1	公明党 (近藤 隆行)	3. 高齢者が安全・安心に暮らせるまちづくりについて	(1) 高齢者が安全・安心に暮らせるまちづくりについて	<p>①本市も超高齢化社会を迎える時期がここ数年できます。その対応として、高齢者が住み慣れた地域でより長く安心して健やかに暮らすことができるような地域共生社会を目指すことが、地域全体・世代全体の安心につながると思うが、市長の高齢者に対する認識を伺います。</p> <p>②市長は予算編成のポイントの中で、立場や世代を超えた「みんなでつくる燕市」の理念のもと、「稼ぐ燕市・育てる燕市・燕はひとつ」を重点に新たなまちづくりとしているが、稼ぐことを終わり、育てることも終わり、第二第三の人生を送られている高齢者が安心して安全に、そして快適とは言わなくても、楽しく、希望をもって暮らせる社会の仕組みが大事であるが、新年度予算の中にどのように反映されているのか伺います。</p> <p>③高齢者人口が増加する中で、長い距離を移動することが困難になり、いわゆる買い物難民等が課題となりつつあります。私が訪問する高齢者の方も、80歳を超えた一人暮らしの方ですが、今後のことを非常に心配されています。このような方たちへの支援策は、今年度予算の中でどのように反映されているのか伺います。</p>
2	新風みらい (田澤 信行)	1. 予算の基本方針について	(1) 予算配分について	①市長は本予算をどのような優先順位と戦略の下で編成されたのか伺います。特に「稼ぐ燕市」として産業振興分野において重点配分した施策について伺います。
			(2) 人口減少対策・移住定住促進について	<p>①人口減少は大きな問題であるものの、あまり数値目標が明らかになっていないものと思いますが、政策の成果を「見える化」する必要があると考えています。令和8年度の移住者・若年層定着率の数値目標について伺います。</p> <p>②子育て世帯や若者に選ばれる住宅・就労支援策についての具体的な施策を伺います。</p> <p>③首都圏への情報発信力の強化に関する施策について伺います。</p>
			(3) 産業振興と地域経済の活性化について	<p>①市内企業において、事業継承、後継者問題が課題になっていますが、本予算ではどのような支援策を講じているのか伺います。</p> <p>②労働力不足の中、DXや自動化、省人化への投資は喫緊の課題であると思いますが、それらに対する補助制度の拡充を図っているのか伺います。</p>
			(4) 子育て・教育環境の充実について	①燕市不登校対策を新規事業として予算化していますが、実態として不登校生徒数や従来の対応の仕方、そして今後どのように取り組もうとしているのか伺います。

発言 の 順序	会派名 (質問者)	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
3	日本共産党議員団 (宮路敏裕)	1. 職員人事計画について	(1)職員人事計画について	<p>①自治体職員数について、行政の効率化や財政健全化の名のもと、総定数の抑制が図られる時代もあったが、現在は新たな行政需要への対応、少子化対策や防災・減災、デジタル化推進など業務が増加し、職員数は増加傾向であるといわれている。当市でも行政窓口のデジタル化で待ち時間が短縮される、或いはフロアマネージャーが案内し、書類申請の補助をして市民が助かっている光景を目にすることができる一方で、様々な行政サービスの多様化により、一人一人の職員の業務負担が過多になっていることはないのか伺う。</p> <p>また、予算算定上の職員数のうち、正職員比率は42.3%であり前年比ではわずかに上昇しているが、令和2年に遡れば、正職員が45.5%であったことから比較すると一定のかい離がある。業務の複雑化・高度化に対応する専門人材の育成や継承がいつそう求められると思うが、正職員比率の現状をどう考えているのか伺う。</p>